

鑛山に於ける労働紛議顛末

第一 釜石鑛山に於ける紛擾事件

第一節 紛擾原因

由來釜石鑛山は其使用人の待遇良好ならざりしと雖も、戦前事業の經營状態不良にして上下共に苦しみし時代に於ては、労働者も締めて忍従せり。然れども今回の戦亂に依りて鑛山が異常の利益を占めたるに拘らず、労働者保護の施設は之に伴はず、而して一方物價は著しく騰貴し、一方社會の風潮新聞紙の記事は彼等を刺戟し、加ふるに労働運動者の指導及煽動するあり、茲に今回の紛擾を醸成するに至りたるものとす。今、鑛山側の施設の労働者の不平、反感を挑發したるものを列擧すれば左の如し。

一、戦時中數千萬圓の利益を占めたるに係らず、田中、横山、其他極めて少數者の獨占に歸し、所員及労働者は一般に其の分配に與らざりしこと。

二、最近、鑛山に施設したる事項は、凡て上に厚く、下に薄かりしこと、例へば

(1) 壯大なる鑛業所長の邸宅を作り、(2) 少數高給社員の社宅を建て、(3) 田中氏宿泊のために特に立派なる旅館を建てたるも(1)労働者の長屋、依然たる豚小屋式にして、(2)下水設備だになく、(3)一の俱樂部なく、(4)入浴に付ても一回二錢の入浴料を徴し居れり。

三、公園及銅像の設置 公園には鐵條の柵を廻し、門に門衛を附し、公園と稱すれども労働者は入り難く、事實上殆んど利用せられず。其の中に壯麗なるモザイクの臺の上に、田中氏及横山氏の銅像聳立す。此銅像が著しく彼等労働者の反感を買ひたるもの、如し。而して本年十月銅像除幕式の際、労働者は式に參列せしめず。事務員には二圓五十錢宛給したるに労働者には僅かに二十錢づゝ與へたりと云ふ。是れ又反感を強めたり。

四、最近、事業擴張に依り、東京地方より多數の職工を招きたるに、彼等に給したる長屋も豚小屋式にて、地は低く、下水設備なく、下水は石油管に入れて數丁を隔りたる川に持ち運びて捨つるが如き不愉快極まる状態なるより、彼等は不平を抱き從來の地元鑛夫及職工を煽動したるもの、如し。

五、最近、前記他地方より來りし工作部職工が、賃銀五割増を要求し、容れられずんば歸るべしとの態度を示せり。茲に於て會社は全労働者に對して、三割の増給を約せり。然るに労働者の中には賃銀の高低一ならず、殊に地元鑛夫は賃銀比較的低く、賃銀増給を要求したる彼等工作夫は比